

胡葵

先ニ實ニツ宛附テ熟スレバ赤シ、小兒ノタメニ殊ニ畏ルベキモノナリ、マタ民間ニフロシキツツミト唱ヘ、方言ニ鍋破ウツギトイフモノ、コレモ其毒酷烈畏ルベキモノナリ、斯ニ三種ノ圖ヲ出スヲ以テ、ヨク々合セ觀テ、殊ニ畏レ避ベキコトナリ、稻若水ノ鈎吻圖說、松岡玄達ガ鈎吻考ニ、逐一記シタレドモ、此國ノ山民輒モスレバ、小兒ヲアヤマツコトアルヲ以テ、更ニ擢テ出ス、
〔倭名類聚抄十六〕蓋蒜胡葵 崔禹錫食經云、胡葵息遣反、和名古仁之、味辛臭、一名香葵、魚鳥膾尤爲要、博物志云、張騫入西域得之、故曰胡葵也、

〔類聚名義抄八〕胡葵コシ 葵音綴與上同、胡葵和綴、コニシ、

〔伊呂波字類抄古〕植物附植物具胡葵コシ

〔多識編三〕胡葵古仁志、異名香葵拾遺、胡葵外臺

〔東雅十三〕胡葵コニシ 倭名鈔に、崔禹錫食經を引テ、胡葵はコニシ、味辛臭、一名香葵、魚鳥膾尤爲

要ト註セリ、コニシとは、其字の音を轉じて呼びしなるべし、今の如きは、是等の物を食に充る事は聞えず、

〔重修本草綱目啓蒙十〕胡葵コニシ 〇〇コエンドロ變語コリアンテアル

蠻種長崎ヨリ傳ヘ來リ、今處處ニ栽ユ、八月種ヲ下ス、初出ノ葉ハ形圓小ニシテ、鋸齒アリテ石胡葵ズサノ如シ、漸ク長ズレバ分テ三葉トナリ、漸ク花岐多クナル、春ニ至テ莖ヲ起ス、高サ一二尺、葉互生ス、梢葉ハ細クシテ絲ノ如ク、齒隙チヌキ蒿ノ梢葉ニ似タリ、四月莖上ニ花簇リ傘狀ヲナス、五瓣ニシテ碎小、瓣ゴトニ一缺アリ、花ウドノ花ニ似テ至テ小ナリ、淺紫色、後實ヲ結ブ、大サ一分許、正圓ナリ、熟スレバ分レテ兩片トナリ、根乃チ枯ル、

〔延喜式三十九〕耕種園圃

營胡葵一段、種子二斗五升、總單功廿八人、耕地二遍、把犁一人、馭牛一人、牛一頭、料理平和二人、畦上